



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2017年 No.3
(通巻51号)
7月13日発行

梅雨明け前にもかかわらず、真夏の暑さが続いています。
皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。
今号は上半期の活動報告を中心にお届けいたします。
イベント参加などの活動に際し、皆様からのご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。
秋・冬の活動につきましては次号でお知らせいたしますので、どうぞお楽しみに！

イベント報告

あーすフェスタかながわ2017

<http://www.earthplaza.jp/earthfesta/>

日時：2017年5月20日（土）21日（日） 10:00（屋台村は11:00）～17:00

会場：地球市民かながわプラザ「あーすプラザ」

主催：あーすフェスタかながわ実行委員会

国際協力・国際交流に携わる団体が世界の文化を伝えるこのフェスタに、今年もバオバブの会は食販と物販で出店しました。会場内の「世界屋台村」では、アジアや中東や南米などの料理の屋台が並ぶ中、唯一のアフリカ料理を提供。おなじみヤーサ（酸味のあるチキンシチュー）やマーフェ（ピーナッツソースのビーフシチュー）、ベニエ（西アフリカのドーナッツ）は、両日とも完売。ワールドバザールではセネガルのママさんグループ作成のケベサック、アクセサリー、書籍などを販売しました。

第7回 GOSPEL FOR PEACE

<http://www.gospel-sq.com/gp2017/>

日時：2017年6月3日（土）開場15:30、開演16:00、終演20:30

会場：新宿文化センター 大ホール

主催：NGOゴスペル広場 <http://www.gospelhiroba.com/html/gospel.html>

「楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力になる」を合言葉に、国際協力を目的に開かれるゴスペル・チャリティー・コンサート。今回も、全国各地の「ゴスペル広場ファミリーグループ」の800人を超えるメンバーが一堂に会し、ハートフル&パワフルな演奏をステージいっぱいには繰り広げました。

バオバブの会は、支援先5団体の一つとして、ディウフ会長が活動報告を行いました。

また、例年通り、ロビーにて、バッグ、アクセサリー、絵本などの販売を行い、たくさんの皆様にお買い上げいただきました。

アフリカ日比谷フェスティバル

日時：2017年6月24日（土）25日（日） 10:00～21:00（10日は17:30まで）

会場：日比谷公園・噴水広場

主催：アフリカヘリテイジコミティー <http://africaheritage.jp>

音楽、ダンス、アート、食などさまざまなアフリカ文化を楽しめる恒例のフェスティバルに、バオバブの会は物販で参加し、ケベサック、絵本やアフリカ文学書、アクセサリー等を販売しました。ブースにはセネガルに行った方やこれから行くという方も訪れ、会長はじめスタッフとセネガル談話で盛り上がることたびたび。ケベサックを購入して暑さにうだる愛犬をすっぽり入れた（！）お客さんには、あちこちから人が群がってきて、笑いの中でしばし撮影会に。なごやかでリラックスした2日間となりました。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★ 第23回 経験

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

（訳・文責 水野）

先回は、セネガルのことわざ、＜お年寄り**は**王様。＞によって、アフリカの社会ではお年寄りが敬われ、大切にされていることをお話ししました。その際、それがなぜかについては言及しなかったのですが、その理由のひとつとして、お年寄りは、長い人生の経験により豊かな知恵を持っているから、ということがあります。

現代では、あらゆる分野の研究者や専門家が未来を予測し、私たちに様々な事柄の予想や備えを示してくれるように、かつては、村々の＜賢者＞と呼ばれるお年寄りが、起こりうる危険を知らせ、対処の方法を惜しみなく助言してくれていたのです。下の二つのことわざは、ここから来ています。

＜老人の眼の中に、人生の道がある。＞ *

＜老人は木の下に座っていても、木のてっぺんにいる若者に見えないものを見ることができる。＞*

それでは、アフリカの人々は＜経験＞それ自体についてどのように言っているのか、今回は、これをお話ししようと思います。

(1)

まず、経験は、判断力とそれによる慎重さを養うと言います。

＜ものを良く見た眼は、じっくりと判断する。＞（南アフリカのズールーの人々のことわざ）

＜年寄りの眼は、朝早く出発しない。ゆっくりと出かけて行って、ものを見る。＞（ルワンダのツチの人々のことわざ）

経験を積んだ人は、急がず、事情を良く知った上で話し、じっくりと判断し、結論を引き出すことができる、ということですね。

(2)

しかし、経験はただでは積めず、しばしば大きな対価を払う。けれども、それは無駄にならない。つまり、経験は、たくさんの失敗や不幸を蒙って得られるものだとも言います。

＜犬に尻尾を咬まれた猿は、もう、他の猿と同じようには走らない。＞（セネガルのマリンケの人々のことわざ）

セネガルの農村のピーナツ畑などには、始終、猿が出没します。猿を追い払い、被害を避けるために、犬を放しておくことがあります。一度、犬につかまって、ようやく逃れたことのある猿は、賢くなり、他の猿と同じような振る舞いはしなくなる、ということです。

(3)

したがって、すべては経験になるのですから、タンザニアのシャンバラの人々が＜道を間違えることが、正しい道を知ることになる。＞と言うように、失敗やリスクを恐れることはないのです。

(4)

それどころか、失敗やリスクが必要にさえなるようです。

＜水に触らなければ、水が冷たいかどうかわからない。＞（コンゴのントンバの人々のことわざ）

＜食べた者だけが、その味を知る。＞（セネガルのウォロフの人々のことわざ）

(5)

また、経験は重ねた年によるものなので、ルワンダのツチの人々が＜蟻は、自分よりもはるかに体の大きい象に、助言を与えた。＞と言うように、体の外見や大きさとは関係ありません。

さて、経験は年齢を重ねることによって積まれるものだ、という話をしてきました。それはそれとして、お年寄りのほうは、若者を、自分のように経験がないからといって軽んじることはありません。なぜなら、お年寄りには、時には知性が経験に勝ることを知っているからです。したがって、社会の様々な問題の解決を探る中で、若者を排除しないことが重要になってきます。このことを、セネガルのウォロフの人々は次のように言います。

＜良い考えをさぐることは、地面に落ちた針を探すようなもの。見つける可能性は、大人でも子どもでも同じ。＞

また、セネガルには次のようなことわざがあります。

＜80の井戸の水を飲んだ若者は、80歳の老人と話し合うことができる。＞

このことわざを理解するためには、アフリカの習慣を、ひとつ、思い出す必要があるでしょう。アフリカでは、客人や旅人を迎えると、まず、水を振る舞うという習慣があります。ですから、＜80の井戸の水を飲んだ＞ということは、少なくとも80の村々を旅したことを意味するわけです。つまり、経験は、年を重ねることだけで得るものではない。たくさんの旅をして様々な場所を見る若者は、お年寄りが長い年月の中で積んだのと同じくらいの経験を得ることができる、と言うのです。時間と空間、二つの移動で、人は経験を積むことができるのですね。

そして、このような立派な若者が、セネガルの人々が次のように言う＜きれいな手の子ども＞ということ

になるのでしょうか。

<きれいな手の子どもは、大人と共に食事ができる。>

子どもというのは、いろいろなところで遊んでいるので、手など汚れているのが普通ですから、大人と一緒に食事をすることはできないのです。しかし、経験を積んで立派になった若者は、大人の仲間入りをすることができる、ということなのです。

注：伝統的なアフリカの社会では、若い人、特に少年は、子どもから大人への通過儀礼を受ける前は、大人と同席することができません。通常、2年から3年おきに行われるこの儀礼では、18歳から20歳の若者を集め、森の奥や小島など人里離れたところで、2か月から3か月を過ごさせます。そこで大人の生活について学び、様々な訓練を受け、大人にふさわしい体力や勇気や責任感を試されます。それを終えて、初めて一人前の男と認められ、大人の話し合いに加わることが許されるのです。

*これらのことわざは、特定の国や人々の間ではなく、多少表現は異なりますが、広くアフリカ全土で言われているものです。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993 - 35

TEL&FAX 045 - 373 - 0059

HP : <http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215